

3.4.3 中央通停車場線道路詳細設計業務委託

○アドバイス主旨

- ① 歩道舗装や照明灯等は、完成工区との連続性・統一感に配慮して整備すると良い。
- ② 電柱や照明灯など、視線を遮る柱状のものを少なくし、目立たないように工夫する。
- ③ 低木や地被類による複層的な植樹帯、場所を限定して高木植栽を行うと良い。



1 歩道舗装に関するアドバイス

(1) 完成工区に近い印象を与える舗装を目指す

- アスファルト舗装ではなく、ブロック系舗装が良い。
- 完成工区に近いベージュ系の色彩が望ましい。
- コストを踏まえながら、質感の良い舗装を目指す。



2 電線地中化地上機器に関するアドバイス

(1) 色彩は薄い茶系色かオリーブ色が望ましい

- 周辺の建物、植栽との調和から、薄い茶系かオリーブ色等の明るい色が望ましい。地上機器同士が近接すると視界を阻害し、圧迫感を与えるが、近接していなければ、こげ茶でも、やむを得ない。
- 照明灯の色彩を完成工区と同じこげ茶とする場合でも、地上機器の色彩は薄茶かオリーブ色が望ましい。形状が異なるものなので、無理に同一色とする必要はない。

3 照明灯に関するアドバイス

(1) 照明灯の本数を減らす工夫をする

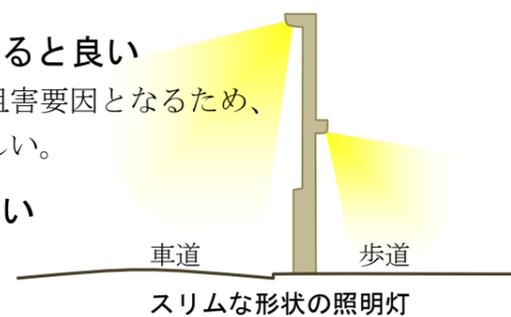
- 照度を確保しつつ、歩道用照明と一体化するなどにより、柱状のものを減らす工夫をする。

(2) 照明灯はスリムな形状を選び、目立たなくすると良い

- 「アーム型」等のオーバーハングした部分は景観阻害要因となるため、ポールと灯具が一体的となった「直線型」が望ましい。

(3) 照明灯の色彩は完成工区に近いものが望ましい

- スリムな形状であれば、必ずしも完成工区のこげ茶から変える必要はない。



4 植栽に関するアドバイス

(1) 混植による複層的な植樹帯が望ましい

- 同一樹種による単調な高木並木としない方が良い。
- 出入口等が多くても、植樹帯ではなく、可能な限り植樹帯が良い。
- 低木や地被類を中心に、可能な場所には高木を植え、複層的で豊かな植栽が望ましい。
- 街並みの視認性を妨げる樹形のものとは避けるようにする。
- これら植栽形成のためには、地域合意や維持管理体制を整えることが必要である。



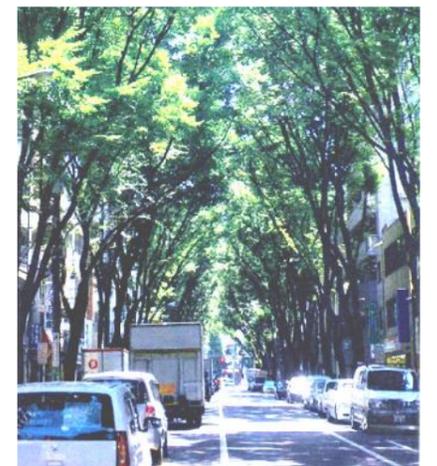
複層的な植栽イメージ

(2) 可能な場所には、ボリュームのある植栽が望ましい

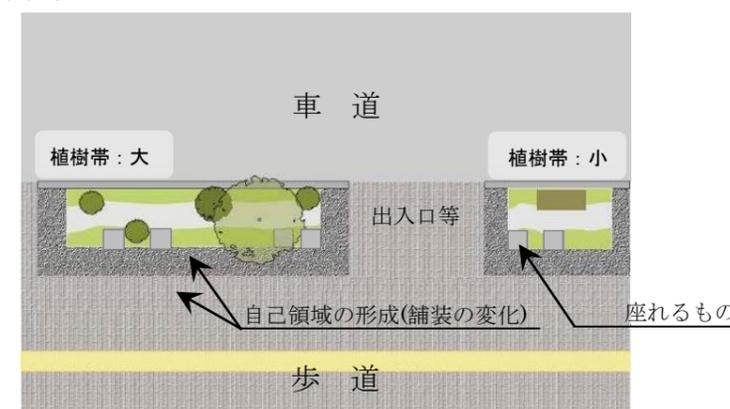
- パルシティ通りとの交差点のポケットパークなどの可能な場所には、木陰や防風など高木の役割を踏まえながら、重点的にボリュームのある植栽を行うと良い。
- 高木や低木及び地被類による複層的な植栽が望ましい。

【参考意見】

- 1 景観は道路構造物だけでできるものではなく、沿道の建物を含めて形成されるため、今後の地元との調整が重要である。
- 2 地域合意や維持管理体制が整えば、ケヤキなどの高木を中心とする「緑のトンネル」による、品格ある景観形成が可能である。(右写真/杉並区の例)
- 3 住宅と商店の混在地域なので、たまり場があると良い。植樹帯に座れるものを設け、舗装の変化により自己領域を形成することで、心地よいたまり場とすることができる。(下図)



中杉通りケヤキ並木 News Letter No.1



植樹帯のたまり場イメージ